西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2020年
9月10日
発行

第53回　「株式市場見通し」

～世界の株式市場は調整局面入り～

初めに

昨日の米国株は大幅安、本日の日本株も大きく下落しています。世界の株式市場は本格的な調整局面に入ったと考えていますが、今回はその理由と今後の見通しについてお話しします。まずは調整局面と考える理由についてです。

調整局面と考える3つの理由

理由は3つあります。利益確定売り、投機的取引への警戒感、米中間の緊張の高まり、の3つです。以下、順に説明します。まずは利益確定売りについてです。

利益確定売り

今年に入って世界の株式市場は3月末に安値をつけた後、上昇を続けてきました。中でもデジタル化の恩恵が期待されるアップルなどは大幅高となっており、いつ利益確定売りが出てもおかしくない状況と感じていました。利益確定売りがようやく出てきたこと、また利益確定売りの余地はまだあると考えられることが、株式市場は調整局面と見る第一の理由です。

投機的取引への警戒感

9月9日の日本経済新聞は『孫氏の「クジラ」広がる影』と題する記事を掲載しました。ソフトバンクグループが個別株のオプションで大きな取り引きを行っていたと報じられた、との内容です。この記事におけるソフトバンクグループの様に市場に大きな影響力を持つ投資家が存在する場合他の投資家はその投資家に何かあった場合のリスクを考えてポジションを減らすと思われます。最近世界的に市場が不安定になっているのはそうした規模の大きい投資家のリスクを警戒して市場参加者が神経質になっているためと思います。こうした状況は簡単には解消されず投資家のリスク回避的な姿勢は当面続くと見ています。これが2番目の理由です。

米中間の緊張の高まり

米中の新冷戦については当レポートでも取り上げましたが、これまで株式市場には大きな影響はありませんでした。しかし最近各国間で動きが出ており、緊張が高まりつつあるようです。例えばこれまで中国との関係が比較的良好だったドイツがですが、アジア政策を転換。民主主義などの価値観を共有する国との協力を打ち出しました。また、東南アジアではメコン川の河川管理を強化したい中国に対し、次の関係国の会議に米国はポンペオ国務長官をリモートで参加させる予定です。一方中国は新型コロナウィルスのワクチン開発を急がせています。この様に米中間の緊張は高まりつつあると見られることも世界の株式市場は調整局面と考える理由です。

西村証券株式会社　NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者　近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会　主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人　証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したものではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等はご遠慮ください。